

【投 稿】

歳月、我が師、我が友

大 西 守
(根室支部)

本稿は本誌令和4年(2022)第3号の『父と母を偲ぶ』の続編である。ここでは恩師、友人、お世話になった方、影響を受けた人物や書物について、大学時代から共済組合時代を中心に回想したい。

私は昭和28年(1953)に大阪市に生まれた。昭和30年代に小学校時代を送った。この時代は団塊の世代など子供が多い時代で、子供同士でよく遊んで成長した。昭和39年(1964)に東京オリンピックがあった。昭和40年代に中学、高校時代を送った。地元大阪市立の名門中学校に通い、軟式野球部に所属していた。教育環境が良く勉学に集中できた。英語を山口由彦先生に2年間教わり、英語の基本が身についた。社会科の岡部 勳先生の授業により思考力と発表力がかなり身についた。3年間クラス替えがなく、級友には後に大阪大学大学院工学研究科教授になる南埜宜俊君がいた。今も数年おきにクラスの同窓会がある。この時代は大学闘争が吹き荒れ、昭和44年(1969)1月に東大安田講堂事件があった。高校時代は硬式野球部に所属していた。昭和45年(1970)に大阪万博、昭和47年(1972)に札幌冬季オリンピックがあった。高校卒業後1年間の浪人生活を経て、昭和48年(1973)の春に実質倍率15倍の日本獣医畜産大学獣医学科に合格した。当時お世話になった、山崎 貞『新々英文解釈研究』、伊藤和夫『基本英文700選』などの参考書は今も書棚にある。因みに私が生まれてから成人するまで、昭和30年(1955)頃～48年頃まで日本は高度経済成長期で、明るい時代だった。昭和43年(1968)にGNPが世界第2位になった。

大学時代は大学近くの武蔵野市と三鷹市の下宿で過ごした。1年次に日獣大でも学費値上げ闘争があり、深夜まで大学当局との全学団体交渉や大学周辺でのデモに参加した。また友人の下宿で朝まで人生について語り合った。4年間男声合唱団に所属した。毎年春夏の合宿では鎌倉、関東、信州、東北地方に行った。指揮者は二期会会員の中村順一氏だった。同氏は東京藝術大学声楽科出身の声楽家で、発声法、歌詞の深い解釈と歌い方を教わった。我々が役員を務めた3年生の時、定期演奏会ではワー

グナーの「タンホイザー」などを演奏した。大学時代は安部公房、高橋和巳、その他を愛読した。特に三木 清の『人生論ノート』、『読書と人生』や『岡 潔集』、桑原武夫『伝統と近代』によって哲学、学問、芸術に関心を持った。また私の姉、大西加代子が所属する安部公房スタジオの演劇をよく見た。大学時代の友人には山岳部の西村昭利君がいた。西村君は大学卒業後、しばらくカナダ北極圏で冒険をやっていた登山家でもある。大らかな純粋な人柄で愛すべき人物である。過去に戻ることができるなら、武蔵野の面影が残る日獣大での学生時代に戻りたい。当時の日獣大獣医学科は家畜外科学教室の黒川和雄教授、一木彦三教授の全盛時代だった。その他、家畜臨床繁殖学の山内 亮教授、家畜微生物学の椿原彦吉教授、乳学の大條方義教授らの名教授がおられた。当時の講義録を今も大切にしている。大学3、4年次は難関の家畜外科学を始め講義と定期試験で鍛えられた。獣医師国家試験は大学の講義、実習、定期試験中心の勉強により合格し獣医師となった。

大学卒業後、根室市農業共済組合に奉職した。その年の冬に北海道農共連家畜臨床講習所で高桑一雄所長、佐藤輝夫氏、故吉田康幸氏に臨床と臨床検査を教わった。吉田氏は血液・生化学検査、特に血清蛋白電気泳動を牛の臨床診断に応用し普及に寄与された。私はその後、中標津町農業共済組合に移り、故駒井義一参事にお世話になった。同氏は旧陸軍獣医の風格漂う人物で、仲人までして頂いた。また故田中保幸氏には氏独自の臨床のツボを教わった。昭和63年(1988)に管内4組合が合併して根室地区NOSAIが発足した。翌昭和64年(1989)1月に昭和天皇が崩御され、時代は昭和から平成に移った。平成元年1月から中標津支所の検査室を増築して、根室地区NOSAI検査室が業務を開始した。東芝臨床化学自動分析装置、ベックマン電解質分析機、シスメックス自動血球計数機、ヘレナ電気泳動分析装置、臨床検査システム、クリーンベンチなどを備えた臨床検査室であった。私は当初から検査室を担当し、臨床研究を行う研究検査室にする考えを抱いていた。当時、北海道農共連家畜臨床講習所に安里 章氏がおられた。同氏は真菌性乳房炎の研究で有名で、乳房炎の臨床細菌学検査の普及に寄与された。同氏には細菌検査法など多くの指導を受けた。私が博士号取得を考えたのも氏の影響である。

新検査室では最初に正常値を作成した。その後、「血液成分の安定性」、「根室地区における乳牛の血液成分の泌乳ステージ別正常値」、「アニオンギャップに異常値～極異常値を示す乳牛の疾患とその予後推定」、「乳牛の疾

患別予後推定」などの研究を行った。後二者の臨床研究では多変量統計解析が必要になった。知人の広島大学の吉田 繁教授の紹介で、川崎医科大学検査診断学教室、松田信義教授、市原清志助教授に多変量統計解析、病態情報解析について教を請うた。市原氏には多重ロジスティック解析などを教わり、研究に必要な統計学書、疫学書、統計ソフト『StatFlex』を紹介頂いた。その後の研究にも多大な影響を受けた。これらの研究は平成3年（1991）～6年（1994）に日本産業動物獣医学会（北海道）で発表した。その後、平成17年（2005）に乳牛から、とあるヒトの薬剤耐性菌を検出した。その診断では動物衛生研究所の江口正志氏、秦 英司氏のご協力を得た。当時、乳牛にも第三世代セファロsporin系やフルオロキノロン系製剤が承認され、牛の臨床も多剤耐性菌時代を迎えていた。その後、平成18年（2006）～25年（2013）にかけて『日本の酪農場における牛乳房炎・糞便由来メタロ-β-ラクタマーゼ及び基質拡張型β-ラクタマーゼ産生グラム陰性菌に関する疫学的研究』という一連の研究を行い、日獣大から博士号（獣医学）を授与された。指導教員は日獣大獣医微生物教室 澤田拓士大学院教授であった。その当時、同動物看護学科 故福所秋雄教授、Meiji Seika ファルマ 廣瀬和彦氏、その他の研究者にお世話になった。澤田氏、福所氏にはよく酒席に誘って頂き、今も懐かしく思い出される。その頃のことは本誌令和3年（2021）第3号の『臨床獣医師の研究と学位取得～学位取得への遠き道のり～』で述べた。

平成時代は平成5年（1993）頃から経済成長率が長期低迷し国民は貧困化した。平成7年（1995）に阪神大震災、平成23年（2011）には東日本大震災に見舞われ、福島第一原子力発電所事故が起きた。GDPは平成22年（2010）に世界第3位になった。令和元年（2019）5月に平成天皇が退位され、時代は令和に移った。令和2年（2020）から新型コロナウイルス（COVID-19）のパンデミックによるコロナ禍が現在まで続き、国民は疲弊している。根室地区NOSAI検査室は中村 章氏など、関係者のご尽力により、NOSAI道東を経て令和3年（2021）まで33年間存続した。平成時代は司馬遼太郎の膨大な作品が私の枕頭の書になった。司馬史観と人間観は味わい深い。

以上、私事にわたったが、長い歳月が流れたことをしみじみと感じる。この間、各分野の第一人者から直接教を受けたことを感謝なしに回想することができない。いつの時代も「困難な時代をどう生きるか」には地図はない。人生は平坦ではなく起伏と迷路と岐路の連続であ

る。その中であって多くの経験と師や友人や書物がゆく先を照らしてくれた。

獣医師募集

北海道石狩家畜保健衛生所では下記のとおり、臨時獣医師を募集しています。

記

勤務先：北海道石狩家畜保健衛生所

所在地：〒062-0045

北海道札幌市豊平区羊ヶ丘3番地

求人数：1名（産前・産後休暇の代替職員）

雇用形態：臨時的任用職員（臨時獣医師）

雇用期間：令和4年7月16日～11月5日（予定）

業務内容：家畜衛生業務（家畜伝染病予防検査、家畜衛生指導、病性鑑定等）

勤務時間：8時45分～17時30分

（うち休憩時間60分）

休日：土日祝日

年次有給休暇：20日以内／年（任用月数により計算）

その他病気休暇・忌引休暇等の休暇制度あり

給与：210,500円（月額）

※職務経験等により個別に算定

手当：通勤手当、住居手当、扶養手当等（支給要件に応じ支給）

加入保険等：健康保険、厚生年金、雇用保険

選考：書類選考（※）及び面接試験

※選考申込時は、事前連絡（電話）の上、写真を貼付した履歴書を当所へ送付して下さい

連絡先：北海道石狩家畜保健衛生所

（担当：信本、伊藤）

TEL：011-851-4779

FAX：011-851-4780

E-mail：ishi-kaho.l2@pref.hokkaido.lg.jp